大正５年５月５日木藤精一郎創立

# やまゆき会会報

令和元年５月号

# 例　会　報　告

中国山地：　大山(弥山 1709.4m)　-雪山山行-　上級Ｄ

3 月 2 日(土)　晴れ　担当:藤堂尚久　参加者 4 名

当初予定は現地前日泊の翌日日帰り登山&帰阪であったが、参加皆さんの了解を得て、3 月 2 日の日帰り登山、予備日を 3 月 3 日と変更した。これにより好天予報の 2 日に実施となった。大阪駅西側に 4 名集合、6 時 10 分乗用車で出発、3 時間半で現地到着、大山ナショナルパークセンター(大山情報館)に駐車した。今回目指すは、中国地方最高峰、日本百名山、霊峰としての古い歴史を持つ大山である。また、西面の優美な山容から伯耆富士の別名を持っている。冬季は厳しい雪山となるが、この時期は積雪量も減り、天気穏やかなら迫力ある絶景の雪山登山が期待できる。

ワカン、アイゼン、ピッケル等の装備を整え、大山寺橋を渡り、夏山登山道入口に向かう。距離約 8km、標高差約 930m、代表的･一般登山ルートを行くこととした。登山口からはなだらかな石段が続いていて、眼前の大山に向かって一直線に登り始める。ごく少ない積雪も、2 合目、3 合目と進むにつれ増えてきて、樹林帯の道の勾配も少しずつきつくなり、アイゼンを装着する。4 合目辺りからはブナの巨木が見られるようになり、しばらくは深い森の中を進む。途中、5 合目先の行者谷分かれでは、元谷への下り道を左に見て、右前方へと登り進む。足元は岩場に変わってきた様子、高度を上げていくと、急に視界が開けてきて、6 合目避難小屋があった。休憩適地であるが、東側の眺望に魅かれシャッターを切る。ユートピアコース、宝珠尾根伝いに三鈷峰(1516m)に到るルートがはっきりと見てとれる。その右側には豆粒のようにユートピア避難小屋も確認できた。周辺、春夏には高山植物のお花畑が広がるところである。

6 合目からは道は狭く、最も急な登り坂が続くが、8 合目まで登ると景色は一変、ダイセンキャラボクの純林帯が広がる頂上台地に出る。ここから山頂までは植生保護のための木道が設置されているが、今は雪道を進み、まもなく頂上避難小屋を経て弥山山頂に到着した。積雪は 50cm 位。すぐ東には、大山最高峰である剣ヶ峰(1729m)から天狗ヶ峰へとヤセ尾根が走っているが、崩落が激しいため登頂は制限されている。とは言え雪山のこの時期、果敢に剣ヶ峰を目指す人もいた。穏やかな天候に恵まれ登山者は多数。我々も食事や周辺散歩、日本海や中国山地の峰々など雄大な展望を満喫することができた。

帰路は、6 合目避難小屋まで一気に下り、行者谷分かれを右にとり行者コースへ。急勾配の樹林の中、30 分ほど下ると明るく開けた元谷に到る。ガレ沢の向こうには元谷避難小屋が立っている。ここから南方を仰げば、北壁屏風岩や、今日登ってきた夏山登山道の稜線がくっきり

と見えている。ガレ沢を渡り、元谷右岸を下り、林道分岐を過ぎてまもなく大神山神社に。社殿を過ぎた先からは長い石畳の大山寺参詣道を行き、鳥居をくぐり旅館街を通り、駐車場へと帰ってきた。皆さん、晴れの雪山を堪能されたであろうか、余裕をもって無事に山行を終えることができた。次は秋、山全体が鮮やかに染まる紅葉時に訪れてみたい。

コースタイム

大阪駅前＝大山 NPCⓅ～夏道登山口(10:10)～3 合目手前(10:45-10:55)～行者谷分かれ(11:35)～6 合目避難小屋(11:45-11:55)～大山(弥山)(13:05-14:00)～6 合目避難小屋(14:40)～行者谷分かれ(14:50)～元谷(15:20-15:25)～大神山神社(15:50)～大山 NPCⓅ＝大阪駅前

## 京都西山： 茨木自然歩道（北山コース） 初級 B

3 月 3 日（日） 曇り時々小雨 担当：中村彰利 参加者 18 名

当会貸切のようなバスで、茨木市北部の開発風景（ダム建設と新名神インターチェンジ関連工事）を車窓から見学。車作バス停でミーティングと準備体操後、集落の中を登り上部の権内水路遊歩道南口に着く。この水路は江戸時代車作の庄屋だった畑中権内さんが独力で開削、今も豊かな水が流れ農業用水に利用されている。約 1.6km の遊歩道を歩き北広場で休憩。一部の方は取水口を見学に行く。

ここから竜王山の北側を通る北山コースがはじまる。石切場跡から府道に出ると清阪集落が目の前だ。美しい山村風景だったが登りはきつかった。フキノトウを見つけた人もいた。少し早いが狩待峠手前で昼食休憩とする。

午後のスタート直後、この山の中に突如新しい住居群があるのに驚く。ここは京都府亀岡市の住宅のよう。狩待峠からの長谷集落へのＳ字状の下りもきれいだった。程なく北山コースの終点「見山の郷」に到着。トイレ休憩と野菜等の買物を楽しむ。集合写真をとり、今日最後のキリシタン自然歩道を忍頂寺へ向け歩く。途中あじさいロード横から山道へ入る。歩き易いやさしい山道はすぐ終り忍頂寺バス停横に出る。予定通り 2 時間に 1 本のバスに乗車でき良かった。心配していた雨にもほとんど会わず、静かな山村風景が楽しめた。

コースタイム

阪急茨木駅バス停(08:50)＝車作バス停(09:30)～権内水路南口 (10:000)～北広場(10:20-10:25)～清阪集落入口(11:00)～狩待峠手前昼食(11:30-12:10)～長谷集落～見山の郷(12:35-12:50)～忍頂寺バス停(13:15)解散

**丹波高原：　虚空蔵山**　初級 C

3 月 10 日(日)　担当 ： 北川隆史

朝から雨のため中止

**京都西山： 松尾山（275.6m）**　初級B

3 月 17 日（日） 小雨　担当:原田佳忠　参加者 19 名

正午頃から小雨との予報だったが、9 時の集合時刻前にはポツポツと降り始める。阪急嵐山駅の屋根の下でミーテングを実施する。本日のコース説明をし、地形図も大切だが鳥瞰図（ちょうかんず）つまり鳥の様に高い所から見下ろし、地形、道路、境界、三角点、等の位置を頭に入れておく。山を楽しむためには山頂を極める、景色や景観を楽しむ、タイムを競う等有りますが、山や里には人々の暮らしと歴史もあります。「本日は嵐山付近の歴史も適宜話します。」と述べ、雨対策を終えて出発する。

京都一周トレイル松尾山登山口に着くと、既に数十名の団体がおられ、登山途中で何度も遭遇した。聞くと京都府山岳連盟・登山学校「京都トレイル」の生徒たちで 60 数名とか。我々はゆっくりと登り松尾山下の分岐に到着し、水分補給の後松尾山へ向かう。本日の目的の山であり、写真撮影と眼下の嵐山を見る。北に進み尾根道へ合流するが、ここでも京都府山岳連盟の方達に出合う。北北西に向かうが途中に 3 mぐらいの岩があり、左からまくようにあがる。嵐山（382m）につき、少し早いが昼食とする（雨も止み食事ができた）。

食後もとの山道に合流し、北北西へと進む。烏ヶ岳の分岐は下見の時には台風での倒木で進めなかったが、左から山腹を巻く方に登り進み烏ヶ岳に到着。写真撮影の後北へ進み、ここで本道と合流する。東へとトラバース気味に進み、烏ヶ岳の往路の分岐を南東へ進む。岩場を慎重に下り、トレイルの分岐を経て登山口へと下山した。

直ぐ近くの法輪寺へ参拝する。この寺は、713 年創建と京都遷都より 81 年も古く静かであるが、今日は十三参りで大勢の着物姿の子供達でびっくりした。境内には桜が咲き、梅も満開、展望場所では愛宕山、比叡山、嵐山、京都市内と景観は抜群だった。トイレも拝借した。渡月橋を渡り左岸を進み、嵐山公園（亀山公園）内を散策し、「周恩来の碑、角倉了以の碑、津崎村岡局の碑、亀山天皇の火葬の塚」等の説明をした。その後展望台へ行き対岸の中腹にある大慈閣（千光寺）の説明をする。眼下には保津川下りなどの景観が見える。公園を下り常寂光寺への参拝を計画していたが参加希望者が少なく割愛して解散とした。

あまりにも短距離なので人の訪ねない所をと計画したが、雨のせいもあり、山と散策の双方の計画は無理があったと反省した。

コースタイム
阪急嵐山駅(9:20)～登山口(9:30)～分岐(10:10-10:15)～松尾山(10:25)～嵐山・昼食(11:15-11:45)～烏ヶ岳(12:11)～トレイル分岐(13;30-13:35)～登山口(14;00)～法輪寺(14:10)～嵐山公園(14:50)～展望台(15:07)～常寂光寺分岐、解散(15:18)

## 丹波高原東部　箕面：街歩き　　入門Ａ

3 月 21 日(木・祝)　雨のち曇り　担当:植松康子　参加者 6 名

雨天の為中止と思っていましたが、未明からの雨の中 6 名が箕面駅に集まりましたので、午後からの総会まで急遽、安威様の協力で街歩きをすることにしました。

箕面駅を出発。駅西側新稲の住宅街を通り箕面市総合運動場・スカイアリーナへ向かった。スカイアリーナからの眺望は雨のため霞んでいた。中池公園の散策路を通り榮松寺に寄り、府道箕面池田線、新稲にでた。この辺りは造園業の方が多く色々な植木を育てておられた。「新稲の庚申塔と一本杉」を見て阿比太神社へ向かった。途中「箕面駅へ行かれるならこちらの道ですよ」と声を掛けて下さり、又見事な桜草の花に見とれていると家人がハサミを持って出て見えて切り花にして下さり、と親切な方々に出会いました。

阿比太公園で休憩後、阿比太神社に参拝。大正 11 年箕面桜ヶ丘地域で開催された住宅改造博覧会会場跡地へ。僅かに残っているお宅を外から拝見後、瀬川中公園へ向かった。公園で昼食。少し早いが本日の総会会場(西南生涯学習センター)に到着。

コースタイム
阪急箕面駅(09:05)～スカイアリーナ(09:35-09:40)～榮松寺(09:50-09:55)～新稲の一本杉(10:10)～阿比太公園(10:25-10:35)～住宅改造博覧会会場跡地(10:45)～瀬川中公園・昼食(11:40-12:20)～総会会場(12:21)

## 平成 30 年度　やまゆき会総会　　(於　箕面市立西南生涯学習センター)

3 月 21 日(木・祝)　曇り　参加者 52 名

配布資料
1. 平成 30 年度総会式次第
2. 平成 30 年度やまゆき会活動報告(2 頁)
3. 平成 30 年度例会参加回数一覧表(表 1)
4. 平成 30 年度例会(2018 年)の地域区分による実績(表 2)
   平成 30 年度(2018 年)例会担当者とその実績数(表 3)
5. 平成 30 年度　やまゆき会収支決算書(2 頁)
6. 2019 年度「やまゆき会」組織図　(平成 31 年 1 月現在)
7. 平成 31 年度やまゆき会活動計画
8. 平成 31 年度やまゆき会予算比較表

午前中の雨も上がり、開催時刻が若干遅れたものの、大勢の参加のもとに平成 30 年度総会が開かれた。

## 懇親会

総会終了後、全員で懇親会の準備を開始し、14 時 30 分から懇親会。

8 つのテーブルに、女性陣主導で男性陣も加わったお手製の和洋折衷料理・菓子類・差し入れのオードブル・つくしのつくだ煮、などが並び、阪下名誉会長による乾杯の音頭で懇親会が始まった。会員提供のお酒類もあり、和やかな歓談と交流は続き、特設のコーヒー・ジュース卓も好評であった。懇親会終了後 16 時 15 分から全員で後片付・清掃。

最後に中川輝夫さんの指揮により「雪山讃歌」を歌い、参加者の記念撮影を行った。

## 友ヶ島：タカノス山　入門B

3 月 24 日　晴　担当:山田昭則　参加19名

南海電車で和歌山に向かう電車から波もなく穏やかな大阪湾が見渡すことができ、今日の友ヶ島の山行が楽しみである。和歌山市駅で乗換えて加太駅に行き、徒歩 20 分ほどで友ヶ島汽船の加太港の乗船場に到着。多くの人が待っており、我々19名は乗船出来ず、次の 11 時 40 分発になるので、待っている間にお昼の弁当を食べることとした。船は 20 分ほどで波もなく快適に友ヶ島港に到着した。野奈浦広場で参加者の確認を終える。友ヶ島は、明治時代に大阪湾への進入を防ぐ目的で 6 ケ所の砲台等が作られていたため無人島であるが、これらの構造物を見学しながら、119.7m の一等三角点のタカノス山に登ることを説明し準備が出来次第出発した。少し急な登り道を上がると、一番大きな規模の第3砲台跡で、弾薬支庫の中は懐中電灯がないと歩けないところがある。山頂であるタカノス山展望台に登り、大阪湾、淡路島、太平洋など周囲の眺めは素晴らしかった。全員で集合写真を撮ってから、大阪湾を望む小展望台に寄り、眼下には波に揺られている釣り船が多く見られた。（友ヶ島の山行だから見られる風景である。）太平洋側に面した孝助松海岸を経て、第1砲台跡、日本標準時子午線最南端の子午線広場、そして友ヶ島灯台（明治5年に造られた洋風建築）に回り、ここでゆっくり休憩を取る。紀淡海峡に面した第2砲台跡は破壊されているが、柵で仕切られて傍に行けないようになっている。大阪湾に面した道を散策しながら友ヶ島港へと歩いていった。

予定より早く着いたので早い船便に乗ることにし、加太港に着いてから雛流しの神事で有名な淡嶋神社に寄る方もおられるだろうから、ここ野奈浦広場で解散とした。天気もよく穏やかな海を眺めながら一等三角点の登頂と昔の構造物を見て回ることができた。

コースタイム

加太港(11:40)＝友ヶ島港・野奈浦広場（12:08）～第3砲台跡（12:27-12:43）～タカノス山展望台（12:52-13:05）～小展望台（13:17-13:20）～孝助松海岸（13:37）～第1砲台跡・友ヶ島灯台（13:43-14:07）～第2砲台跡（14:11-14:16）～野奈浦広場・解散(14:40)

## 大阪府千里丘陵：　待兼山三角点　入門B

3 月 30 日（土） 曇一時小雨　担当:久保田博巳　参加者 29 名

曇天で午後の降水確率が 50%と高く例会実施についての電話、問い合わせをいただいた方々にはサクラの満開時期の事も考えて延期する事を伝えていたが、阪急石橋駅には 29 名の方々の参加があり予定通り出発する。石橋阪大下交差点を渡り大阪大学総合学術博物館、待兼山修学館へ向う。10 時半の開館を待って本日の第一目標3階に展示されている 1964 年 5 月に豊中キャンパス理学部の新校舎建設工事現場から完全に近い形で出土した、体長 8m 体重 1.3tのマチカネワニ実物の骨格化石を間近に見てから、各階にある大阪大学の姿を紹介している学術標本研究資料の展示を各自見学する。

春休みで学生も少なく静かな豊中キャンパス途中にある休業中の学食を通り抜けて、マチカネワニ発掘現場理学研究科本館西側に記念モニュメントが建てられている所に立ち寄ってから、総合図書館下にある学食で学生に交じって全員昼食休憩する。此所から全学教育講義A・B棟間ピロティを通り、一寸校舎内を通り抜けて北口門へ。弓道部横から、イノシシ出没注意の標識阪大看板を見て、待兼山に向う道は２ヶ所のフェンスが施錠されているが巻き道もあって、フェンス外側には住宅が接近、開発が進んでいるが内側阪大キャンパスは豊かな自然がいっぱい守られている。豊中市と箕面市境界尾根筋の標高 77.0mの三角点で記念写真を撮ってから、千里丘陵最西端池田市側、尾根末端の背丈を超す藪に囲まれた中に大正天皇の行幸を記念した高さ 3mを越す立派な石碑が立っている

が此所から先、以前あった道は今は廃道となっていた。突破しようと思って暫らく藪漕ぎしたが年齢を考えて引き返し、下に見える遊歩道を経て待兼山修学館裏庭の咲き始めのサクラの下で休憩。藤堂節子さん手作りの大量の桜餅を御馳走になって、石橋門を出た所で解散する。

一週間後の土曜の参加者は無く、キャンパス内のサクラは満開で宴会する学生と新入学一年生を勧誘する部活運動で学食も学生で溢れて身動き出来ない混雑状態であった。

コースタイム

石橋駅西口(10:15)～大阪大学総合学術博物館(10:30-11:00)～マチカネワニ発掘記念モニュメント(11:30)～図書館下学食(11:40-12:20)～待兼山三角点(12:40)～待兼山修学館(13:00)

## 伊吹山地：小谷山(494.6m)/虎御前山(224m) -戦国史跡・小谷城跡を歩く-初級 B

3 月 31 日(日) 曇り時々雨 担当:藤堂節子 参加者 14 名

河毛駅到着。無人駅のためホームを降りると街だった。踏切を渡り、駅東側の広場に行くと浅井長政とお市の方の像があり、その後方に小谷山、その前方に丘のように見える虎御前山が望める。地域ガイドの方が小谷城について詳しく説明して下さったので歴史がよく分かり、コースが見渡せた。準備体操後出発し車道を歩くこと 10 分、急に雨が降り出したため雨具を装着する。まもなく北陸自動車道手前に虎御前山登山口がある。車道から直接急登だが少し平らになって柴田勝家砦跡、前方後円墳跡、木下藤吉郎砦跡、織田信長砦跡と続く。信長砦跡が虎御前山最高点だ。浅井勢は元亀元年に信長との戦に敗れ、元亀 3 年まで守りの堅い小谷城で戦った。攻め手の織田勢がこの小さい丘に 2 万もの陣を敷いた景色は想像がつかないが、近くに望める小谷城を直接攻め上るには格好の地形であることは理解できる。

元の登山口に戻り、北国脇往還道を経て戦国ガイドステーションで雨具を整えた。追手道コースに向かい荒れた道を進み、車道に行き当たったすぐ先が望笙峠で竹生島が間近に展望でき心が和む。次の番所跡で車道は終わり城内の主要部分に進む。と言っても歩いていると山道ばかりだが、設置された看板の説明書きでいくつもあった曲輪が尾根の上に縦一列に配置されていたことが分かる。また、浅井三姉妹の育った屋敷跡、長政が自害した屋敷跡、本丸跡の上には父親の久政が自害した小丸跡など、戦国時代の歴史の現場であったことが窺える。本丸跡の下で昼食をとった。30 分の昼食休憩の内に雨が降りだし、食べ始めると雨がやんで日が照り出したが寒かった。小谷城の主だった曲輪が途切れた辺りから下り坂になり、その後急登が続き主峰の大嶽(おおづく)城跡に向かう。ここが頂上の 494.6m 地点で三等三角点があった。大嶽城は初代の亮政が築いたが、息子の久政が今の本丸跡へ移転させたそうだ。下りには福寿丸、山崎丸の曲輪があり、歩きやすい下山道だった。麓の郡上集落に入りほっとした所で本日一番の大雨と大風に

見舞われ、今度は雨具を本格的に整え河毛の駅へ向かう。駅近くで虹が出ていることを教えられ、振り返って小谷山に架かる虹を見て感動した。

本日の変な天気のお詫びかな。

コースタイム

JR 河毛駅前(9:40)～虎御前山(10:35-10:45)～戦国ガイドステーション(11:30-11:40)～追手道登山口(11:50)～望笙峠(12:05-12:10)～番所跡(12:20)～小谷城本丸跡(12:35-13:05)～山王丸跡(13:20)～小谷山・大嶽城跡(13:55-14:10)～福寿丸跡(14:35)～尾崎神社(15:10)～JR 河毛駅前(15:35)